

令和2年度 泉佐野丘陵地緑地 運営審議会 中地区検討部会（第3回）

日時：令和2年12月14日（月）14:00～16:00

場所：泉佐野丘陵地 パークセンター（オンライン中継あり）

◆出席者

増田委員長 前中委員 武田委員 上田委員
久住委員 小門委員 那須委員

◆概要

1. 「また来たくなる」公園づくりについて
 - ・現状報告
 - ・今後の進め方

2. 各チームからの検討事項
 - ・園路竹林チームからの新ルート検討について
 - ・竹工作チームから『真竹保護エリア』の候補地選定
 - ・果樹樹木キノコチームからの検討内容について
 - ・女性チームの活動内容について

3. その他
 - ・中地区活性化検討委託の進捗について

●パークセンターに設置する掲示板について

- ・ 掲示板的下に、見た人が記入できる A5 サイズくらいのアンケート用紙を置いておくといよい。用紙を放り込める目安箱を置いておくのもよいだろう。
- ・ 地図にプロットするピンクのマグネットと同じものを、場所の名前を書く掲示板にも使うといいだろう。
- ・ 「けもの道の穴」は話を聞くとおもしろそうだったと思うが、名前だけではなんのことかわからないので補足があるほうがいい。しかし説明が多くてはよくないので、工夫してほしい。
- ・ パーククラブのチームの活動場所もマグネットで表示できるとよいだろう。地図上にマグネットをつけ、「パーククラブのお知らせ」のところに内容を書くとよい。
- ・ マグネットは増えすぎるとわかりづらくなるので、「見どころ」と「活動」の2種類くらいでよい。
- ・ 「パーククラブのお知らせ」よりも「パーククラブ活動中」などのタイトルがよいだろう。

●植栽計画と子どもの遊び場について

- ・ 素人が作った遊具を常設して使ってもらおうという仕組みは大変だろう。予期せぬ事故が起きる。そうではなく指導者がついて一緒に遊ぶ形であれば可能かもしれない。プレイリーダーという仕組みである。
- ・ 例えばシーソーなども、部材を解体して倉庫に片付けることができるようにしておき、遊ぶときだけ取り出すようにしておく方がよいだろう。

パークレンジャーがプレイリーダーの役割を担う形が理想的である。

- その方法も含めて再検討する。遊具の組み立てをパーククラブがサポートすることが難しい場合は諦める可能性もある。(パーククラブ)

- ・ 今回はナラ枯れの木を使おうとしている。腐食が影響することはないか。
 - ・ 短いものについては1度、燻蒸している。それらを使う場合、シーソーなどは無理だが、皮をむいて使えば大丈夫であると思っている。
 - ・ ナラ枯れというのは、導管が傷んで水が上がりなくなり枯れてしまうことであり、腐食材ではない。根本は虫が入っているので使えないが、その他の部分は枯れた木として考えればよいのではないか。

- ・ 使う前に木槌で叩き、腐食が進行していないかなどを確認しながら進めていくことになるだろう。ただし、転がしておいて自由に遊んでもらうことは難しい。

●竹工作チームから「真竹保護エリア」の候補地について、

- ・天神川沿いだが、作業するのに危険ではないか。
 - 危険なところもある。斜面にも真竹が豊富に生えているところがあるが、そこには手を出さず、平地を中心に組みたい。
- ・手を入れる場合は景観も意識してほしい。道から竹林の中が透けて見えるようにするのかどうか、など。
 - 基本的には枯れた竹と倒れた竹を除去しただけだが、景観はよくなった。公園の入口からパークセンターまでの道の傾斜が大変だという話もあるので、景観を楽しみながら歩けるようにしたい。竹工作チームだけでは難しいので、大阪府と相談したい。
- ・生駒の高山地区に行くと、今の時期は茶筌のために竹が干されていて風物詩になっている。

●園路竹林チームから新ルート検討（ねじき池周辺）について

- ・道の周辺の竹林の中へ人が自由に入れるようにするのか、竹林の中も道でつなぐのかによって、考え方は変わるはずである。
 - 道はなるべく狭く、木はなるべく切らない、構造物はなるべく作らない、という方針で進めていきたい。斜面はあるが、棚田のあぜ道を利用しながら整備を進めたい。
- ・集いの広場～竹の池沿い～ねじき池沿いにつながっている既存の道は、あまりおもしろくないのか。管理道のようにしているのか。
 - 左手が樹林、右手が斜面（果樹園）になっている道であり、開放感のある道となっている。左手側の樹林の中が雰囲気がい場所、野鳥の季節である9月～10月にはたくさんの鳥が鳴いている。
既存の道が1.2mほどの幅があるのに対し、今回は0.6mほどの幅を考えている。野鳥観察会などには適した道になると思っている。
- ・そのエリアにはコクランがあると聞いたが、道をつけるといづれはなくなってしまふ。そのエリアからなくなることは前提として、半分ほどを他の人が立ち入らない場所に移植して、もう半分は道を通る人に紹介するために残しておくといいかもしれない。
- ・ナラ枯れの木について、大阪府が園路の安全性を考えて倒していると思うが、新たに園路を作る場合はナラ枯れ対策も連動するはずではないか。

→ 園路沿いのナラ枯れについては伐採を進めているが、樹林の中についてはまだ手が回っていない状況である。今回の場所は重機が入ることも難しく、いったんは安全集積という形で、樹林の中にまとめて置いておくしかないと考えている。園路沿いのナラ枯れは順次伐採を進めているが、今年度中では終わらない見通しである。

- ・ ナラ枯れは 5 年間ほど辛抱強く対策を続ける必要がある。5 年ほど経つと侵攻が止まり他のところへ移動していく可能性がある。ナラ枯れと園路の調整もうまく進めてほしい。
- ・ 園路の関係性のような視点は利用者にも伝わるとよいと思っていて、現地のサインなどは工夫するといいだろう。個人的には、隠れ池の小径や郷の小径などのように「小径シリーズ」になるのではないかと思っている。
- ・ ルート検討委員会が見学ルートを検討しているはずである。利用方法もセットで考えてほしい。

●果樹樹木キノコチームの検討事項について

- ・2のエリア（隠れ池東側）の棚田跡地は水はけが悪いので、そこに植樹のための壺穴を掘ったとしても効果は薄いだろう。また、この周辺で育つのはハンノキくらいである。そのようなことを踏まえながら、既存の土地の条件でも育つもので考えるのか、土壌改良を行うのか、という選択を考える必要がある。水が抜けるよう継続的に改良しなければ、途中で穴を掘るだけでは意味がない。
 - ・この公園の理念は、今ある土地を活かしながら緩やかに展開していくということである。
 - ・例えば向井池の南側のエリアは昔からハンノキ林であり、その延長にある2のエリア（隠れ池東側）も同じようにハンノキが適しているはずである。
 - ・目標像を持つことは大切だが、自分たちが取り組むことのできる範囲での目標像を持つことも大切である。毎年、自分たちが手をつけることができる範囲はどれくらいなのか、ということ話し合いながら目標を考えてほしい。
 - ・今回の提案の場合、例えばツツジの園を作るといった構想はすごく時間のかかる話であるし、土地改変のために土を入れ替えてツツジを移植しようという話は、公園の理念とは違った進め方ではないか。
 - ・今回提案されているエリアは、園路竹林チームが作ろうとしている新しい園路とも重なるところがあり、連動して一体的に考える必要があるだろう。
- 2のエリア（隠れ池東側）の棚田跡地は、向井池から見て4段目までは園路竹林チームで竹を全伐した。そのうち2段目までは、自然の回復に任せることにした状態だと認識している。あぜ道には立派なツツジが生育しており、平地には自生する山桜が育っている。したがって園路竹林チームとしては、ここは今のまま育っていけばよいと考えている。
- ・2段目まではあぜ道ツツジが咲いているため、そのままあぜ道沿いにツツジを植えていけば、ツツジを楽しみながら歩くことのできる園路になると考えた。平地全体にツツジを植えたいということではなく、あぜ道沿いに植える程度を考えていた。
 - ・既に生育しているツツジについても、大きくなりすぎているものは切り戻して花が目線の位置にくるようにする、といった対応も必要になる。
 - ・ツツジの苗づくりを進める場合は、挿し木は一箇所からとるのではなく、色んな場所からとるようにしてほしい。花に微妙な色の違いが出て、見栄えが美しくなるはずである。
 - ・1のエリア（隠れ池の南側を中心とした周辺部）は「モミジの谷構想」とされているが、ここに関しては壮大な絵を描いてほしい。地形としては水面があり、景色をつくるという意味

では意欲の湧く場所である。単にモミジを植えるというだけではなく、どういう風に見えるかを意識しながら取り組むと素晴らしい場所になるかもしれない。

→ 1のエリア（隠れ池の南側を中心とした周辺部）は破竹に覆われていた場所であるが、谷筋のようになっており、おもしろい場所であると感じている。すぐにできる話ではないが、ここがモミジを楽しめる谷筋になれば、見ごたえのあるエリアになると思っている。ただし樹木は10年以上の単位で見ることが必要であり、長期スパンで考えなければならぬ。

- ・長期スパンで考えるのはよいが、もう少し拡大した図面で詳細に考える必要がある。具体的に行動としてどのような内容に落とし込むのかも考えてほしい。
- ・まずは残すべき樹木を選定し、将来に向けてどの樹木を大きく育てていくのかを検討してほしい。そうすると、何を植樹すべきなのかがわかってくるだろう。

・モミジもニレも、このエリアにおける自生地は谷筋だが、元々は排水のよい場所に生育することが基本である。必ずしも湿った場所が適しているわけではない。ただモミジは繊細なイメージがあるが、粘質でも育つ性質であることから、庭園などにも用いられている。

→ モミジの生育には日照が必要ではないかと思っていたが、必ずしもカンカン照りである必要はないということか。

・日陰のほうがよいという植物は存在しない。照りすぎて水分がなくなってしまうような土地は問題だが、今回のエリアのように水分が十分にある場所であれば、日照はあればあるほどよい。

・ヤマザクラの巨木周辺については谷筋などではないので、竹を伐採したところについてはドングリなどを実験的に取り播きたいと考えている。

・取り播きをする場合は、1度に色々な樹種を播くのではなく、具体的に樹種を選定したほうがよい。

・他の公園では、クヌギは定着したがコナラは定着しなかったという例が見られた。ヤマザクラの巨木周辺では、定着状況はどうか。

→ 2年ものの苗木については問題なく成長している。

- ・竹林の間伐は毎年必要があり、今後も長期的な作業が必要であるが、そこには大阪府などの行政が支援する機能も必要ではないか。今後も竹林化を防ごうとする、それなりの対策が必要ではないか。

増田

- ・目標像に対して巨大な資本投下をするという考え方ではない。自分たちができる範囲で目標を設定し、自分たちで実現させていくことが基本である。活動する上での最低限のサポートは大阪府にお願いするが、それ以上でも以下でもない。自分たちが体力的に難しいと感じるならば、それを許容し、管理する竹林も限定せざるを得ない。

→ 当初から見ると半数以上の竹林がなくなっていて、樹林に切り替わっている。個人的には、これでも十分ではないかと思っている。

●女性チームの活動について

- ・女性チームが取り組んでいるドングリの紙芝居について、ドングリは子どもたちにとって非常に有効なプログラムである。ドングリそのものを活用したプログラムにも取り組んでみてほしい。

3 中地区活性化検討委託の進捗について

●中地区活性化検討委託の進捗について

- ・利用実態の調査については、客観的な調査もちろん大切だが、現場で長く活動しているパーククラブが課題を深く認識しているので、パーククラブにもヒアリングを行うことが必須である。

以上